

岡病防第17号  
平成29年10月5日

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長  
(公印省略)

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予報第7号を下記のとおり発表したので送付します。

平成29年度病害虫発生予報第7号

平成29年10月5日  
岡 山 県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量
水 稲	トビイロウンカ	—	少
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	並
果 樹	カメムシ類	—	並
キュウリ	褐斑病	—	並
キュウリ・ナス	ミナミキイロアザミウマ	—	並
アブラナ科 野菜	ハクサイ白斑病 ハクサイべと病 軟腐病 黒腐病 コナガ ヨトウガ アブラムシ類 モザイク病 ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ オオタバコガ	— やや遅 やや遅 やや遅 — — — — — — —	やや少 やや少 やや少 並 やや多 並 やや多 並 並 並
キ ク	ナミハダニ オオタバコガ	— —	やや多 並

## 1. 普通作物

### (水稲)

#### 1) トビイロウンカ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 9月25～26日の巡回調査(南部地帯)では発生を認めず、発生圃場率は平年(24.5%)より低かった。

イ. 9月28日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、やや発生を助長する条件である。

### (ダイズ)

#### 1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は1,762頭で平年(1,774頭)並であった。

イ. 9月5～6日の巡回調査における白化葉(被害葉)の発生圃場率は24.7%で平年(25.4%)並であった。

ウ. 9月28日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、やや発生を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 平成29年度植物防疫情報第4号(9月11日発表)参照。

## 2. 果樹(全般)

### 1) カメムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における9月1～5半旬の誘殺数は、チャバネアオカメムシは77頭で平年(93.3頭)よりやや少なく、クサギカメムシは2頭で平年(2.6頭)並、ツヤアオカメムシは147頭で平年(102.1頭)よりやや多かった。

## 3. 野菜

### (キュウリ)

#### 1) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月21日の巡回調査によると発生圃場率は100%で、平年(88.7%、過去10年のうち7年間は100%)並であった。

イ. 9月28日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

(キュウリ、ナス)

1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月19、21日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 9月28日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、やや発生を助長する条件である。

(アブラナ科野菜)

1) ハクサイ白斑病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 9月19、21日の巡回調査によると発生圃場率は12.5%で、平年(24.8%)よりやや低かった。

イ. 9月28日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 秋作では生育中期から結球期に初発生することが多いので、初期防除を徹底する。

2) ハクサイべと病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 9月19、21日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(8.5%)よりやや低かった。

イ. 9月28日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

3) 軟腐病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 9月19、21日の巡回調査によると、ダイコン、ハクサイとも発生を認めず、発生圃場率はいずれも平年(ダイコン23.6%、ハクサイ2.4%)より低かった。

イ. 9月28日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

4) 黒腐病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月19、21日の巡回調査によるとキャベツでは発生を認めず、平年(7.0%、過去10年のうち7年間は0%)並、ハクサイでは平年同様発生を認め

なかった。

イ. 9月28日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

5) コナガ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は10頭で、平年(0.5頭)より多かった。

イ. 9月19、21日の巡回調査によるとダイコンでは発生圃場率が100%で平年(33.8%)より高かったが、キャベツ、ハクサイでは発生を認めず、いずれも平年(キャベツ7.4%、ハクサイ7.9%)より低かった。

ウ. 9月28日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、やや発生を助長する条件である。

6) ヨトウガ

予報内容

発生量 **並**

予報の根拠

ア. 9月19、21日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 9月28日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、やや発生を助長する条件である。

7) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量 **アブラムシ類 やや多**  
**モザイク病 並**

予報の根拠

ア. 赤磐市の黄色水盤における9月1～5半旬の飛来数は1,595頭で平年(534頭)より多かった。

イ. 9月19、21日の巡回調査によると、ダイコン、ハクサイ、キャベツのいずれにおいてもアブラムシ類の発生を認めず、発生圃場率は平年(ダイコン0%、ハクサイ2.5%、キャベツ2.5%)よりやや低かった。

モザイク病は、ダイコン、ハクサイとも発生を認めず、発生圃場率は平年(ダイコン11.8%、ハクサイ1.0%)より低かった。

ウ. 9月28日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、やや発生を助長する条件である。

8) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 **並**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は1,762頭で平年(1,774頭)並であった。

イ. 9月19、21日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月28日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、やや発生を助長する条件である。

9) ハイマダラノメイガ

予報内容

発生量 並  
予報の根拠

ア. 9月19、21日の巡回調査によると発生量は平年並であった。

イ. 9月28日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、やや発生を助長する条件である。

10) オオタバコガ

予報内容  
発生量 並  
予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は2頭で、平年(2.8頭)並であった。

イ. 9月19、21日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月28日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、やや発生を助長する条件である。

4. キク

1) ナミハダニ

予報内容  
発生量 **やや多**  
予報の根拠

ア. 9月19日の巡回調査では発生圃場率が16.7%で、平年(3.5%)よりやや高かった。

イ. 9月28日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、やや発生を助長する条件である。

2) オオタバコガ

予報内容  
発生量 並  
予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は2頭で、平年(2.8頭)並であった。

イ. 9月19、21日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月28日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、やや発生を助長する条件である。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、  
[http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec\\_sec1=239](http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239) です。

